

2 地^じしん・つ波^{なみ}から身^みを守るために

(1) 地^じしんから身^みを守る

ゆれ^{かん}を感じたら・・・

おちついて・・・

ゆれているときにすること

まず自分^{じぶん}の身^みを守ろう。

・ じょうぶなつくえやテーブルの下にもぐろう。

・ あわてて、外にとび出さないようにしよう。

・ 外にいるときは、ブロックべい、まどガラス、じどうはんばいき、かんばんからはなれよう。

・ 学校では、つくえの下にかくれる。



ゆれが小さくなってからすること

・ ドアをあけてにげみちをつくらう。

・ ガスコンロやストーブの火を消そう。

・ かぞくで決めていたひなんばしょに行こう。



- ・ 学校では、先生やほう
そうのしじを聞いてひ
なんする。



がっこう 学校や家のまわりであぶないばしょをかき入れよう。

学校内	
そと	
いえの中	

おうちの方へ

地震に備えて日頃から次の準備をしておきましょう。

- ・ タンスや家具などを倒れないように固定する。
- ・ コンロやストーブのまわりに燃えやすいものを置かない。
- ・ 家族で避難場所と連絡方法（災害時伝言ダイヤル171
など）を決めておく。
- ・ 避難場所までの安全な避難経路を考え、避難の練習をする。



非常持ち出し品のリスト

- ・ 2～3日分の食料と飲用水（1人1日当たり3リットル）
- ・ 紙コップ、紙皿、ラップ、懐中電灯、衣料品、
救急薬品、軍手、現金、携帯ラジオ、はき物、
トイレットペーパー、ビニル袋など



(2) つ波から身を守る

つ波は、ものすごく大きな力をもっています。ひざの高さぐらいのつ波でも、私たちはかんたんに^{なが}流されてしまいます。

海のそばに住んでいる人だけではなく、海水よくや魚つり、りょこうなどで海がんにいる人もちゅういしましょう。

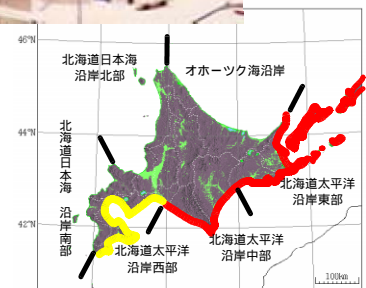
・ 地しんをかんじたら、すぐに高いところににげましょう。

・ 高いところがないばしょでは、じょうぶなたてものの上のかいににげましょう。



三重県紀勢町
津波避難塔
「錦タワー」

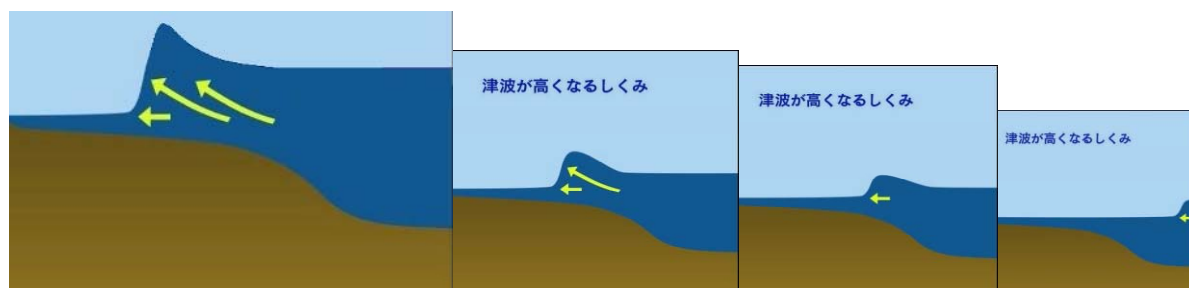
テレビ、ラジオ、防災むせん、こうほう車で「つ波けいほう」や「つ波ちゅういほう」が発表されいるあいだは、海がんからはなれていましょう。



津波警報	大津波 3m, 4m, 6m, 8m, 10m 以上
	津波 1m, 2m
津波注意報	津波注意 0.5m

(3) つ波のとくちょう

・ 海がんに近づくと、きゅうに大きな波になります。



・ つ波は川をさかのぼります。

・ つ波はなんどもくり返し
海がんにおしよせます。



・ つ波は海水が引くことから始まるばあいがあります。



こわかった地しんとおおつなみ（ほっかいどうなんせいおき地しん）

7月12日の夜10時17分、いきなり地しんがきました。私は地しんがこわくて、ふるえながら車にのっていたら、いきなり水がどうっときて、うかされて、車ごととはしらにぶつかってしまいました。そしてお父さんが一回目のつ波でげんかんから、おばあちゃんのへやまで流されました。あたまに「しめなんていやだ」とうかんで声に出してしまいました。（稲穂小学校4年生の作文から）

つ波が発生したときににげるばしょは！

地しんのときに、あなたのかぞくのひなんばしょは！

おうちの方へ

気象庁では地震発生後およそ3分で津波予報を発表しますが、それよりも早く津波が来る恐れがあるのでただちに避難しなくてははいけません。

また、津波は第二波、第三波とくり返し襲ってくるので、気象庁の津波警報・津波注意報が解除されるまでは気を緩めないでください。